



第82期報告書

平成19年4月1日から平成20年3月31日まで

Anritsu
アンリツ株式会社



株主の皆様には、ますますご清栄のこととお喜び申し上げます。

日頃は格別のご支援を賜り厚く御礼申し上げます。ここに第82期（平成19年4月1日から平成20年3月31日まで）の事業の概況並びに決算の状況をご報告申し上げます。

■ 全般的概況

当期における世界経済は、原油などの高騰、サブプライムローン問題の実体経済への波及などにより景気後退が懸念されるなど、先行き不透明感が強まりました。景気回復基調にあった日本でも、原材料価格の高騰、急激な円高により、景気減速の動きが強まりました。

情報通信ネットワークの分野においては、固定通信、移動通信の両分野におけるブロードバンド化が進展しており、さらには各種サービスをひとつのネットワークで提供する次世代通信ネットワーク（NGN：Next Generation Networks）の構築に向けたさまざまな動きが世界で加速しています。一方、この分野は、市場競争の激化から顧客動向が不透明さを増しており、特に、期の後半では、景気後退懸念から設備投資抑制が顕著になるなどの傾向が見られました。このような状況の中、当社グループは次の施策に取り組みました。

1) 販売体制・顧客サポート体制の強化

中南米地域を統括する販社をメキシコにおいて始動させました。

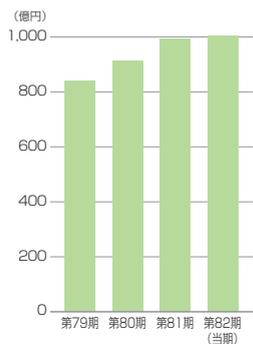
2) 新製品の提供

第3.5世代及び次世代の移動通信サービスに対応したワイヤレス通信用計測器、NGN構築に向けた光ファイバ建設・保守用計測器、汎用の信号解析用計測器などを市場投入し、製品ラインを拡充しました。

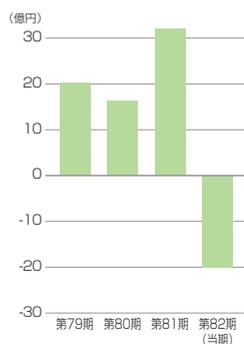
3) サービス・アシュアランス分野の受注拡大

有力通信事業者をターゲットとした営業活動（Tier-1戦略）を継続し、収益の改善に積極的に取り組みました。

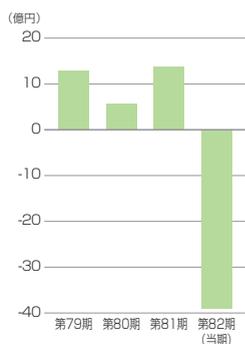
■ 売上高



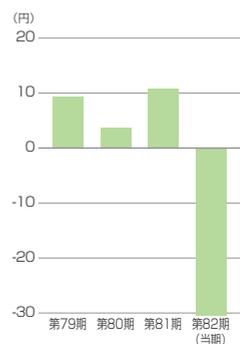
■ 経常利益



■ 当期純利益



■ 1株当たり当期純利益



4) 「経営革新2008」の実施

顧客の設備投資抑制の動きが顕著になる中、「利益ある成長」戦略を再構築し、次期以降の収益性改善と競争力強化のための施策「経営革新2008」に取り組み、不採算製品の整理、非効率部門の改革などを進めました。

当期は、主力の計測器事業では、EMEA（欧州・中近東・アフリカ）地域でのサービス・アシュアランス分野の動きが活発でしたが、その他の分野においては新製品の売上が想定を下回ったほか、期の後半からの急激な円高、設備投資抑制の動きにより、受注高、売上高とも前期並みにとどまりました。一方、産業機械事業は食品の安全・安心へのニーズの高まりを背景として好調に推移しました。この結果、全体としては、受注高、売上高とも前期に対し微増となりましたが、営業利益は前期を下回りました。また、「経営革新2008」の一環として、大規模な棚卸資産評価・廃却損と、経営革新施策費用を計上したことにより、経常損失及び当期純損失を計上する結果となりました。

以上の結果、当期の期末配当金は1株につき3円50銭とさせていただきます。

■ 今後の方針

今後も、引き続き厳しい市場環境が続くものと予想される中、当社グループは、企業価値の向上のため、次の施策を展開してまいります。

計測器事業：「経営革新2008」を具体化し確実に実行す

ることにより、収益力の向上を目指します。サービス・アシュアランス分野では、引き続きTier-1戦略を推進し、さらなる収益改善を図ります。携帯端末用の分野では、第3.9世代のLTE端末開発用計測器の開発に注力します。さらに、最先端分野や通信領域のみならず、社会、産業、生活のあらゆるシーンで計測器の用途が広がっていることに対応するため、営業・CRM(Customer Relationship Management)、R&D、SCM(Supply Chain Management)の各ビジネスプロセスを有機的に連携させ、市場ニーズを的確に捉えたソリューションの提供や機能強化を図ってまいります。

情報通信事業：IPネットワークソリューションの競争力強化、システムインテグレータとの関係強化により民需市場を積極的に開拓し、経営基盤の強化に取り組みます。

産業機械事業：コスト削減による収益力の向上、製品の高付加価値化、差別化戦略、海外市場への展開を加速させることにより、事業の拡大を目指します。

CSR活動：当社グループの企業活動を、コンプライアンス、コーポレートガバナンス、地球環境、人権、リスクマネジメントなど、CSRの各領域から引き続き見直し、経営インフラのさらなる改善に繋げてまいります。

株主の皆様におかれましては、今後ともなお一層のご支援を賜りますようお願い申し上げます。

平成20年6月

社長 戸田 博道

区 分			第79期 平成16年度	第80期 平成17年度	第81期 平成18年度	第82期(当期) 平成19年度
売 上	高	(百万円)	84,039	91,262	99,445	100,485
営 業 利 益	益	(百万円)	4,862	4,549	6,358	5,356
経 常 利 益	益	(百万円)	2,023	1,628	3,193	△ 2,006
当 期 純 利 益	益	(百万円)	1,279	562	1,375	△ 3,900
1 株 当 たり 当 期 純 利 益		(円)	9.31	3.76	10.79	△ 30.60
総 資 産	産	(百万円)	142,111	152,389	140,395	124,917
純 資 産	産	(百万円)	60,308	60,970	61,619	52,845
1 株 当 たり 純 資 産 額		(円)	472.16	477.51	483.25	414.16
研 究 開 発 費	費	(百万円)	10,514	12,509	14,072	14,679
設 備 投 資 額	額	(百万円)	1,869	2,698	2,319	2,790
減 価 償 却 費	費	(百万円)	3,400	3,453	3,599	3,373

計測器事業



次世代移動通信システム用測定器



伝送装置・光モジュール用測定器



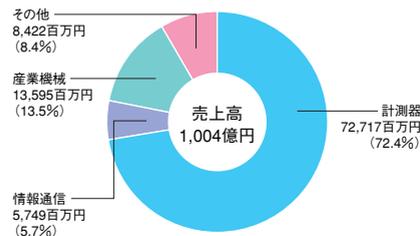
光ファイバ用測定器

この事業は、通信事業者・関連機器メーカー・保守工事業者へのさまざまな通信用計測器・測定システムの提供及びサービス・アシュアランス事業を行っています。

当期は、サービス・アシュアランス分野において、前期から引き続き取り組んだTier-1戦略が奏功し、有力通信事業者からの受注を獲得したことにより売上が大幅に増加しました。一方で、その他の計測器の分野では、研究開発用の需要が日本と欧州で一巡したこと、平成20年に入り外部環境の悪化を背景とした顧客の設備投資抑制が顕著になったことなどにより、売上が急速に鈍化しました。この結果、売上高は727億17百万円（前期比0.2%減）となりました。営業利益については、当期はサービス・アシュアランス分野での収益改善が見られたものの、携帯端末分野の収益落込みを補うべく投入した新製品群の売上の進捗が遅れたことに加えて、急激な円高などの影響もあり、41億26百万円（前期比12.5%減）にとどまりました。

事業部門別売上高（連結）

区 分	第81期（前期）		第82期（当期）		前期比 増減率
	金 額	構成比	金 額	構成比	
売 上 高	99,445	100.0	100,485	100.0	1.0
計 測 器	72,882	73.3	72,717	72.4	△ 0.2
情 報 通 信	6,010	6.0	5,749	5.7	△ 4.4
産 業 機 械	12,295	12.4	13,595	13.5	10.6
そ の 他	8,256	8.3	8,422	8.4	2.0



情報通信事業



帯域制御装置

この事業は、官公庁や地方自治体へ納入する公共情報システム、通信事業者等向けの映像配信ソリューションや帯域制御装置などを提供しています。

当期は、公共情報システムを中心に顧客の設備投資計画の見直しが顕著になっており、民需向けの帯域制御装置についても売上が伸び悩み、売上高は57億49百万円（前期比4.4%減）となりました。営業利益は、減災ソリューション等への先行開発投資もあり、76百万円（前期比47.5%減）にとどまりました。

産業機械事業



X線異物検出機

この事業は、食品・薬品・化粧品産業向けに、高精度かつ高速の各種自動重量選別機、自動電子計量機、異物検出機などを提供しています。

当期は、食品の安全・安心意識の高まりから、X線異物検出機が国内外で好調に推移するとともに、海外では自動重量選別機も好調でした。この結果、売上高は135億95百万円（前期比10.6%増）となりました。営業利益は、増収効果及びコスト削減により、8億14百万円（前期比34.0%増）となりました。

その他の事業



印刷はんだ検査機

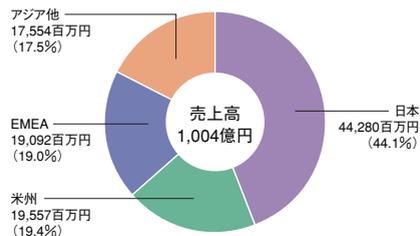
この事業は、デバイス事業、精密計測事業、環境関連事業及び物流、厚生サービス、不動産賃貸及びその他の事業からなっております。

当期は、光通信用デバイスにおいて、動画配信市場向けが需要一巡により減少する一方、メトロネットワーク向けの低価格の既存製品が伸長したことや、精密計測事業での品質対策費用の発生などもあって、売上高は84億22百万円（前期比2.0%増）、営業利益は、19億25百万円（前期比26.9%減）となりました。

地域別売上高（連結）

区分	第81期（前期）		第82期（当期）		前期比 増減率
	金額 百万円	構成比 %	金額 百万円	構成比 %	
売上高	99,445	100.0	100,485	100.0	1.0
日本	45,054	45.3	44,280	44.1	△ 1.7
海外	54,391	54.7	56,204	55.9	3.3
米州	19,023	19.1	19,557	19.4	2.8
EMEA	18,251	18.4	19,092	19.0	4.6
アジア他	17,117	17.2	17,554	17.5	2.6

EMEA：欧州、中近東、アフリカ地域



展示会への出展

■ アンリツは、さまざまな展示会に出展し、ビジネスチャンスをつかむ取組みを行っています。

CEATEC JAPAN 2007

平成19年10月、アジア最大級の最先端IT・エレクトロニクス総合展示会「CEATEC JAPAN 2007」が、千葉・幕張メッセで開催されました。アンリツは、新製品の汎用計測器を中心に、印刷はんだ検査機やネットワークの帯域制御装置などを幅広く展示。お客様の高い関心を集めました。



Mobile World Congress 2008

平成20年2月、世界最大規模の無線通信技術の展示会「Mobile World Congress 2008」が、スペイン・バルセロナで開催されました。

100カ国を超える国々の通信事業者や通信機器メーカーが参加する中、アンリツも米国で開発・製造したハンドヘルド計測器やデンマークで開発したネットワーク通信品質を保証するシステムに加え、日本からも次世代携帯電話開発に向けた計測器などを出展。最先端の移動通信ソリューションを紹介しながら、お客様と活発な意見交換を行う貴重な機会となりました。



スペクトラムマスタがNFLで採用

～スタジアムで利用される無線通信の混信や障害を解析し、NFLの円滑な運営に貢献～

米国の国民的スポーツであるフットボール。試合の管理・運営を行っているナショナル・フットボール・リーグ（NFL）は、試合中の監督と選手間の通信や医療スタッフ、警備スタッフへの連絡、テレビ・ラジオ放送などのために無線通信を利用しています。現在、32のスタジアムで400チャンネル以上の無線周波数が使用されていますが、各スタジアムのRFスペクトラム（電波の混信状態）や障害解析、妨害波対策などを効率よく行うことが課題となっていました。

この課題解決のため、アンリツのスペクトラムマスタMS2721Bが、視認性に優れた大型ディスプレイ、高い分解能、充実したメモリー機能などを高く評価され採用されました。



スペクトラムマスタ MS2721B

アクセスマスタが技能五輪国際大会で活躍

平成19年11月7日から21日までの2週間、静岡県沼津市で第39回技能五輪国際大会が開催されました。22年ぶりに日本で開催されたこの大会は、2年に1度、世界各国・地域の予選会を勝ち抜いた22歳以下の青年が一堂に会し、電気、建築、美容、料理、デザインなど48分野で技能を競うものです。

今回、「情報ネットワーク施工」競技において、審査員や選手が使用する光ファイバの接続状態の確認ツールとしてアンリツの計測器（アクセスマスタMT9082A）が活躍しました。日本代表選手がMT9082Aをモニターとして使用し、手際よく光ファイバを融着。抜群の成績で優勝したことから、当社製品の性能の高さを大いにPRすることができました。



東証ディスクロージャー表彰 受賞

アンリツのIR活動が東京証券取引所から評価され、平成19年度の「Listed Company Award of the Year (上場会社表彰)・ディスクロージャー表彰」を受賞しました。

東京証券取引所は、およそ2,400社ある上場会社の中から、3つのカテゴリで上場企業のIR活動を評価し、毎年表彰しています。13回を迎えた今回は、積極的な情報開示を実施している企業として、アンリツを含めた6社が「ディスクロージャー表彰」に選定されました。アンリツは、セグメント情報（事業別や地域別の売上高など）の開示や、充実した資料をホームページで提供していることなどが高く評価されました。

今後も公平・迅速な業績の開示とともに、株主・投資家の方々に、日常生活とは直接的な接点を持たない当社の事業活動をより一層理解していただくため、さらなる開示情報の充実に取り組めます。



ホームページで投資家向けのやさしい技術解説を掲載

アンリツの事業活動・製品を投資家の皆様によりご理解いただくため、当社ホームページに「投資家のためのやさしい技術解説」を掲載しています。当社の主力事業である計測器を中心に、実際の使用事例などを含めて、わかりやすく紹介しています。

掲載URL <http://www.anritsu.co.jp/J/IR>

Anritsu 投資家のためのやさしい技術解説

携帯電話移動機(端末)の生産用・保守用に使用される一帯型システムについて解説します。

W-CDMA 用ラジオコミュニケーションアナライザ

携帯電話システムの移動機(端末)の生産・保守時には、移動機が基地局と正実に交信ができる機能・性能を備えているかを試験する必要があります。

アンリツは、第3世代携帯電話システムTMであるW-CDMATM、第3.5世代のHSPATMの移動機の生産試験TMと保守試験TMを、1) 台で高速に行えるラジオコミュニケーションアナライザ MTR9000を提供しています。

本製品は、会社のシングルリングテスト(可搬試験用)、デジタル移動機生産用テスト(遠征試験用)、デジタル生産用発生機(遠征試験用)の基本性能・機能をコンパクテナーに収納し、移動機を遠征状態で試験することができます。更に、遠征試験主要項目の1台測定に約4.2秒以下という世界最高レベルの測定スピードを実現しています。このため、3GPP規格TMに準拠したW-CDMAの移動機の評価を高速に行うことが出来、移動機の生産検査や保守現場で、効率的な試験ライン構築が可能になります。

投資家のためのやさしい技術解説の一例

企業の社会的責任 世界350社ランキングにランクイン

ニューズウィーク日本版の平成20年2月13日号で特集された「企業の社会的責任 世界350社ランキング」において、アンリツは314位にランクされました。（日本企業は86社がランクイン）

このランキングは、世界的な株価指数MSCIワールド・インデックスの構成銘柄 約1,900社（23カ国）を対象に、スイスの調査機関SiRi社の調査データをもとにCSR（企業の社会的責任）を評価したものです。「企業倫理」「地域社会」「企業統治」「顧客」「従業員」「環境」「調達先」の7分野で評価し、アンリツは特に「企業倫理」「顧客」で高い評価を得るなど、これまでのCSRに対する積極的な取り組みの成果を示すことができました。



ニューズウィーク日本版（2月13日号）から転載

「かながわ地球環境賞」受賞

アンリツの地球環境保全活動が、神奈川県などが主催する「平成19年度かながわ地球環境賞」を受賞しました。

アンリツは、事業活動・製品・サービスが及ぼす環境影響を的確に把握・評価し、改善を図ることを事業経営の重点課題として、これまで長年にわたって地球環境保全に向けた実践的な活動に取り組んでいます。今回、その業績が顕著であったことや、神奈川県環境保全協議会の理事として同協議会でさまざまな委員会活動に携わってきたことなどが高く評価されました。今後も引き続き、地球環境保全を意識した事業活動を展開してまいります。



連結貸借対照表 (第81期：平成19年3月31日現在 第82期：平成20年3月31日現在)

(単位：百万円)

科目	第81期 (前期)	第82期 (当期)
資産の部	140,395	124,917
流動資産	85,391	75,659
現金及び預金	18,947	17,384
受取手形及び売掛金	28,113	27,616
有価証券	998	-
棚卸資産	26,599	20,652
繰延税金資産	9,324	9,071
その他	1,895	1,353
貸倒引当金	△ 488	△ 418
固定資産	55,003	49,258
有形固定資産	23,459	21,946
建物及び構築物	14,014	13,306
機械装置及び運搬具	2,389	2,027
工具器具備品	2,463	2,056
土地	4,558	4,397
建設仮勘定	34	157
無形固定資産	18,308	15,368
のれん	14,651	12,518
その他	3,656	2,850
投資その他の資産	13,235	11,943
投資有価証券	2,285	1,612
繰延税金資産	1,703	1,849
長期前払費用	7,490	7,614
その他	1,786	890
貸倒引当金	△ 29	△ 24
合 計	140,395	124,917

(注) 記載金額は、百万円未満を切り捨てて表示しております。

科目	第81期 (前期)	第82期 (当期)
負債の部	78,776	72,071
流動負債	51,086	27,435
支払手形及び買掛金	7,476	7,269
① 一年内償還社債	15,000	-
② 短期借入金	13,582	6,276
未払法人税等	1,274	830
役員賞与引当金	66	27
その他	13,685	13,031
固定負債	27,690	44,636
③ 社債	-	10,000
④ 新株予約権付社債	15,000	15,000
⑤ 長期借入金	9,451	15,734
退職給付引当金	1,741	1,866
役員退職慰労引当金	80	32
賞与引当金	48	8
繰延税金負債	754	865
その他	613	1,129
純資産の部	61,619	52,845
株主資本	63,341	58,540
資本金	14,049	14,049
資本剰余金	22,999	22,999
利益剰余金	27,116	22,322
自己株式	△ 824	△ 831
評価・換算差額等	△ 1,736	△ 5,749
その他有価証券評価差額金	705	183
繰延ヘッジ損益	△ 1	△ 22
為替換算調整勘定	△ 2,441	△ 5,910
新株予約権	13	54
合 計	140,395	124,917

連結貸借対照表のポイント

■ 棚卸資産

当期において棚卸資産評価・廃却損を計上したことにより、棚卸資産が大幅に減少しました。

■ 有利子負債

有利子負債の圧縮を引き続き進めた結果、当期末の有利子負債残高は470億円（前期末は530億円）となりました。

- ① 第3回無担保社債
平成20年1月29日に150億円を満期償還しました。

- ② 短期借入金
平成19年4月にシンジケートローン70億円を返済しました。

- ③ 第4回無担保社債
満期 平成24年9月26日
利率 年1.87%

- ④ 2010年満期円貨建転換社債型新株予約権付社債
満期 平成22年9月21日
利率 なし
転換価額 1,070円

- ⑤ 長期借入金
平成20年1月にシンジケートローン70億円を借入れました。

連結損益計算書 (第81期：平成18年4月1日から平成19年3月31日まで 第82期：平成19年4月1日から平成20年3月31日まで)

(単位：百万円)

科目	第81期 (前期)	第82期 (当期)
売上高	99,445	100,485
売上原価	55,786	56,474
売上総利益	43,659	44,011
販売費及び一般管理費	37,300	38,655
営業利益	6,538	5,356
受取利息	398	254
受取配当金	35	38
その他の営業外収益	673	444
営業外収益	1,107	737
支払利息	1,234	888
為替差損	465	258
棚卸資産廃却損	542	2,426
棚卸資産評価損	1,112	3,221
その他の営業外費用	918	1,304
営業外費用	4,272	8,099
経常利益	3,193	△ 2,006
固定資産売却益	—	35
関係会社整理益	166	—
新株引受権戻入益	160	—
特別利益	326	35
経営革新施策費用	—	1,156
投資有価証券評価損	39	29
特別退職金	331	—
固定資産廃却損	47	—
特別損失	418	1,186
税金等調整前当期純利益	3,101	△ 3,156
法人税、住民税及び事業税	2,216	435
法人税等調整額	△ 490	307
当期純利益	1,375	△ 3,900

(注) 記載金額は、百万円未満を切り捨てて表示しております。

連結損益計算書のポイント

■ 売上高

産業機械事業が好調に推移しましたが、主力の計測器事業が前期並みにとどまったことにより、前期比1%増となりました。

■ 営業利益

産業機械を除く事業セグメントが減益となったため前期を下回る結果となりました。

■ 当期純利益

「経営革新2008」の一環として、当期において営業外費用として棚卸資産評価・廃却損の大幅な増加計上と、特別損失として経営革新施策費用を計上した結果、当期純損失を計上しました。

連結キャッシュ・フロー計算書

(第81期：平成18年4月1日から平成19年3月31日まで)
 (第82期：平成19年4月1日から平成20年3月31日まで)

(単位：百万円)

科目	第81期 (前期)	第82期 (当期)
営業活動によるキャッシュ・フロー	2,488	6,251
税金等調整前当期純損益	3,101	△ 3,156
減価償却費	3,670	3,347
のれん償却額	640	640
受取利息及び受取配当金	△ 434	△ 292
支払利息	1,234	888
その他の営業外損益・特別損益	△ 185	33
売上債権の増減額	1,218	△ 1,590
棚卸資産の増減額	△ 1,790	4,961
仕入債務の増減額	△ 1,852	1,035
その他	△ 675	1,826
小計	4,927	7,694
利息及び配当金の受取額	440	291
利息の支払額	△ 1,291	△ 1,008
法人税等の支払額	△ 1,942	△ 878
法人税等の還付額	355	152
投資活動によるキャッシュ・フロー	420	△ 2,373
有価証券の売却による収入	900	—
有形固定資産の取得による支出	△ 2,218	△ 2,437
有形固定資産の売却による収入	321	132
投資有価証券の売却による収入	1,952	—
その他	△ 535	△ 68
財務活動によるキャッシュ・フロー	△ 13,974	△ 6,625
短期借入金純減少額	△ 1,964	△ 244
長期借入れによる収入	7,800	7,640
長期借入金の返済による支出	△ 4,168	△ 8,120
社債の発行による収入	—	10,000
社債の償還による支出	△ 14,793	△ 15,000
提出会社による配当金の支払額	△ 828	△ 892
その他	△ 19	△ 8
現金及び現金同等物に係る換算差額	142	△ 514
現金及び現金同等物の減少額	△ 10,923	△ 3,261
現金及び現金同等物の期首残高	30,870	19,946
現金及び現金同等物の期末残高	19,946	16,684

(注) 記載金額は、百万円未満を切り捨てて表示しております。

連結キャッシュ・フロー計算書のポイント

■ 営業活動によるキャッシュ・フロー

棚卸資産の圧縮など運転資本の効率化に努めたほか、米子子会社での法人税等の支払額が減少したことにより、前期から約37億円改善させることができました。

■ 投資活動によるキャッシュ・フロー

有形固定資産の取得による支出が増加しました。なお、前期は、有価証券及び投資有価証券の売却による収入がありました。

■ 財務活動によるキャッシュ・フロー

平成20年1月に償還した第3回無担保社債150億円の償還資金の調達等を目的として、平成19年9月に第4回無担保社債100億円を発行するとともに、平成20年1月にシンジケートローン70億円の長期借入を行いました。なお、平成19年4月にシンジケートローン70億円を返済しました。

連結株主資本等変動計算書

(第82期：平成19年4月1日から平成20年3月31日まで)

(単位：百万円)

	株 主 資 本				
	資本金	資本剰余金	利益剰余金	自己株式	合 計
平成19年3月31日 残高	14,049	22,999	27,116	△ 824	63,341
連結会計年度中の変動額					
剰余金の配当	-	-	△ 892	-	△ 892
当期純利益	-	-	△ 3,900	-	△ 3,900
自己株式の取得	-	-	-	△ 9	△ 9
自己株式の処分	-	-	△ 1	2	1
株主資本以外の変動額（純額）	-	-	-	-	-
合計	-	-	△ 4,794	△ 7	△ 4,801
平成20年3月31日 残高	14,049	22,999	22,322	△ 831	58,540

	評価・換算差額等				新株予約権	純資産合計
	その他有価証券 評価差額金	繰延ヘッジ 損 益	為替換算 調整勘定	合 計		
平成19年3月31日 残高	705	△ 1	△ 2,441	△ 1,736	13	61,619
連結会計年度中の変動額						
剰余金の配当	-	-	-	-	-	△ 892
当期純利益	-	-	-	-	-	△ 3,900
自己株式の取得	-	-	-	-	-	△ 9
自己株式の処分	-	-	-	-	-	1
株主資本以外の変動額（純額）	△ 521	△ 21	△ 3,469	△ 4,012	40	△ 3,972
合計	△ 521	△ 21	△ 3,469	△ 4,012	40	△ 8,773
平成20年3月31日 残高	183	△ 22	△ 5,910	△ 5,749	54	52,845

(注) 記載金額は、百万円未満を切り捨てて表示しております。

貸借対照表 (第81期：平成19年3月31日現在 第82期：平成20年3月31日現在)

(単位：百万円)

科目	第81期 (前期)	第82期 (当期)
資産の部		
流動資産	57,448	47,708
固定資産	78,806	77,401
有形固定資産	9,510	9,110
無形固定資産	545	512
投資その他の資産	68,750	67,778
資産合計	136,255	125,109
負債の部		
流動負債	43,210	20,755
固定負債	22,325	39,613
負債合計	65,535	60,368
純資産の部		
株主資本	70,018	64,530
資本金	14,049	14,049
資本剰余金	22,999	22,999
利益剰余金	33,792	28,312
自己株式	△ 824	△ 831
評価・換算差額等	687	156
新株予約権	13	54
純資産合計	70,719	64,741
負債・純資産合計	136,255	125,109

(注) 記載金額は、百万円未満を切り捨てて表示しております。

損益計算書 (第81期：平成18年4月1日から平成19年3月31日まで 第82期：平成19年4月1日から平成20年3月31日まで)

(単位：百万円)

科目	第81期 (前期)	第82期 (当期)
売上高	50,193	49,647
売上原価	35,501	36,812
売上総利益	14,691	12,834
販売費及び一般管理費	11,967	12,373
営業利益	2,723	461
受取利息	258	260
受取配当金	514	358
ブランド管理料	124	132
その他営業外収益	166	117
営業外収益	1,064	868
支払利息	207	184
社債利息	338	324
為替差損	38	474
棚卸資産売却損	303	2,373
棚卸資産評価損	945	2,457
その他営業外費用	215	593
営業外費用	2,048	6,407
経常利益	1,739	△ 5,076
貸倒引当金戻入益	-	112
固定資産売却益	-	35
新株引受権戻入益	160	-
特別利益	160	148
経営革新施策費用	-	43
投資有価証券評価損	39	29
特別損失	39	73
税引前当期純利益	1,859	△ 5,002
法人税、住民税及び事業税	△ 389	△ 409
法人税等調整額	54	△ 6
当期純利益	2,195	△ 4,586

(注) 記載金額は、百万円未満を切り捨てて表示しております。

株主資本等変動計算書

(第82期：平成19年4月1日から平成20年3月31日まで)

(単位：百万円)

	株主資本					評価・換算差額等	新株予約権	純資産合計
	資本金	資本剰余金	利益剰余金	自己株式	合計			
平成19年3月31日 残高	14,049	22,999	33,792	△ 824	70,018	687	13	70,719
事業年度中の変動額								
剰余金の配当	-	-	△ 892	-	△ 892	-	-	△ 892
当期純利益	-	-	△ 4,586	-	△ 4,586	-	-	△ 4,586
自己株式の取得	-	-	-	△ 9	△ 9	-	-	△ 9
自己株式の処分	-	-	△ 1	2	1	-	-	1
株主資本以外の変動額(純額)	-	-	-	-	-	△ 531	40	△ 491
合計	-	-	△ 5,480	△ 7	△ 5,487	△ 531	40	△ 5,978
平成20年3月31日 残高	14,049	22,999	28,312	△ 831	64,530	156	54	64,741

(注) 記載金額は、百万円未満を切り捨てて表示しております。

会社の概要 (平成20年3月31日現在)

商号	アンリツ株式会社
	ANRITSU CORPORATION
本社	神奈川県厚木市恩名五丁目1番1号 (〒243-8555)
	電話 (046) 223-1111 (代表)
創立	昭和6年3月17日
資本金	140億円
従業員数	3,963名 (連結) 1,074名 (単独)

役員 (平成20年6月26日現在)

代表取締役社長	戸田博道
代表取締役	橋本裕一
取締役	マーク・エバンス
取締役	小野浩平
取締役	山口重久
取締役 (社外取締役)	清田瞭
常勤監査役	庄司耕治
常勤監査役	斉藤五郎
監査役 (社外監査役)	龍岡資晃
監査役 (社外監査役)	的井保夫

執行役員 (平成20年6月26日現在)

社長	※戸田博道
専務執行役員	※橋本裕一
専務執行役員	※マーク・エバンス
常務執行役員	※小野浩平
常務執行役員	小藤哲司
常務執行役員	※山口重久
執行役員	島村章一
執行役員	フランク・ティアナン
執行役員	小熊康之
執行役員	田中健二
執行役員	高橋光一郎
執行役員	柏木俊洋
執行役員	鷺見孝則

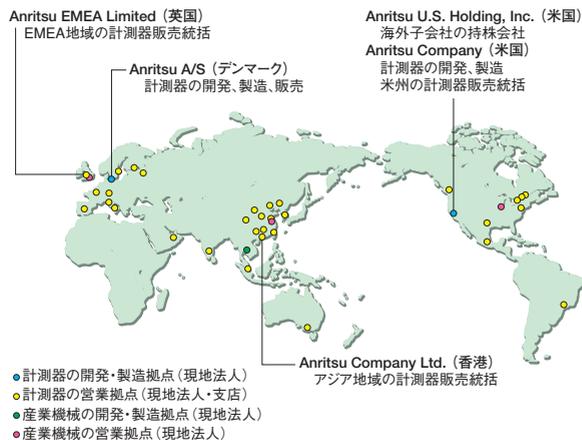
(注) ※印を付した執行役員は、取締役を兼務しております。

国内ネットワーク

アンリツ株式会社 (本社) (計測器等の開発、販売)
 アンリツ産機システム株式会社 (産業機械の開発、製造、販売)
 アンリツネットワークス株式会社 (情報通信機器の開発、販売、保守)
 アンリツ計測器カスタムサービス株式会社 (計測器の校正、修理、保守)
 アンリツデバイス株式会社 (光デバイスの製造)
 アンリツプレジジョン株式会社 (精密計測機器の開発、製造)
 アンリツエンジニアリング株式会社 (ソフトウェアの開発)
 アンリツ興産株式会社 (施設管理、厚生サービス、カタログ等制作)
 アンリツ不動産株式会社 (不動産の賃貸)
 アンリツテクマック株式会社 (加工品、ユニット組立品の製造、販売)
 株式会社アンリツプロアソシエ (シェアードサービスセンター業務)

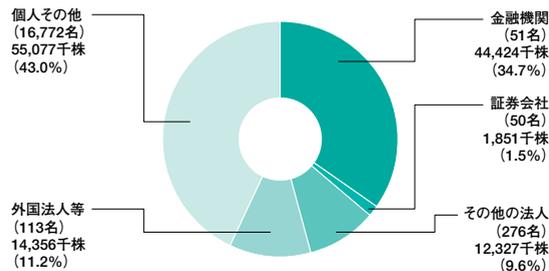


海外ネットワーク



株式の状況 (平成20年3月31日現在)

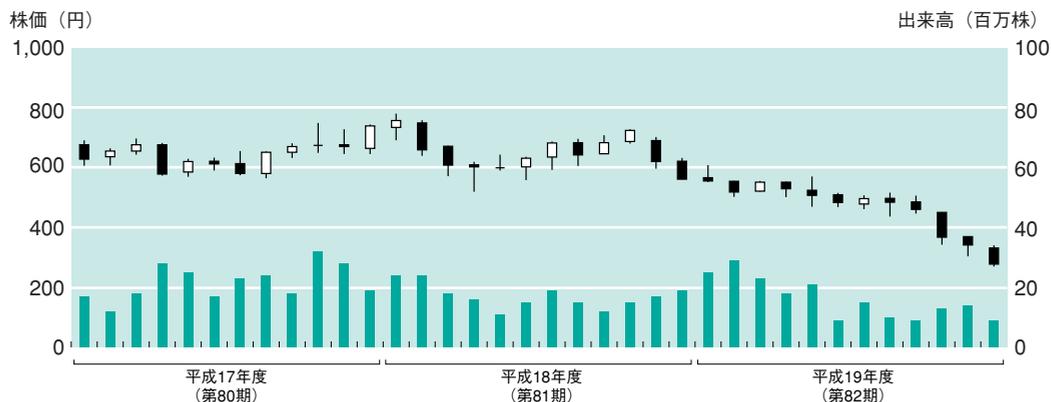
- ・発行可能株式総数／400,000,000株
- ・発行済株式の総数／128,037,848株
- ・株主数／17,262名
- ・株式の所有者別状況



大株主

株主名	持株数(千株)	出資比率(%)
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社 (住友信託銀行再信託分・日本電気株式会社退職給付信託口)	19,200	15.00
日本電気株式会社	8,312	6.49
日本マスタートラスト信託銀行株式会社(信託口)	4,057	3.17
モルガン・スタンレー・アンド・カンパニー・インターナショナルPLC	3,168	2.47
三井住友海上火災保険株式会社	2,964	2.32
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社・住友信託退給口	2,500	1.95
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社(信託口)	2,359	1.84
住友生命保険相互会社	2,314	1.81
ゴールドマン・サックス・インターナショナル	1,817	1.42
資産管理サービス信託銀行株式会社(証券投資信託口)	1,566	1.22

株価・出来高の推移



社債の状況

銘柄	発行日	社債残高	転換価額	転換率
平成22年9月21日満期 2010年満期円貨建転換社債型新株予約権付社債	平成15年9月19日	15,000 ^{百万円}	1,070 ^円	- %
平成24年9月26日満期 第4回無担保社債	平成19年9月26日	10,000	-	-

●**Annual Report・CSR Report you wish to receive**

日本語版Annual Report及びCSR報告書(2008年3月期)をご希望の方は、裏面の請求欄に印を付け、必要事項をご記入のうえ切り取ってご投函願います。なお、発送は、8月上旬頃を予定しております。

●**Survey cooperation request**

株主・投資家の皆様からのご意見を、IR活動改善の参考とさせていただきたく、裏面アンケートへのご協力をよろしく願いたします。なお、アンケートにご協力いただいた方の中から先着で300名様に図書カード(500円相当)を進呈いたします。当選発表は、発送をもって代えさせていただきます。

※印の項目は、各種資料・図書カードの送付に必要ですので、送付を希望される方は正確にご記入ください。(送付を希望されない場合は、ご記入は任意です。)

株主・投資家の皆様からいただいた個人情報は、次の目的の範囲で利用し、当社の「個人情報保護方針」に基づき保護いたします。

- ・当社のIR活動改善のための分析
- ・各種資料及び図書カードの発送

なお、当社の「個人情報保護方針」につきましては、以下のURLをご参照ください。

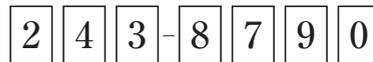
<http://www.anritsu.co.jp/J/Policy/privacy.asp>



料金受取人払郵便



差出有効期間
平成20年12月31
日まで有効



神奈川県厚木市恩名5-1-1

アンリツ(株)
IRアンケート係宛



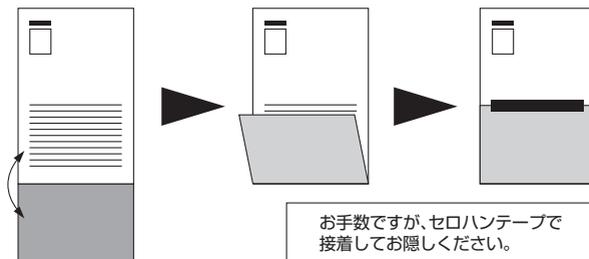
↑折り返す際にはこの点線に合わせてください。

株主No. (同封の「配当金領収証」または「配当金のお振込先について」に記載の8桁の番号) を記入してください。	
※	
※ (フリガナ) 氏名	
※ 住所	〒 -
電話番号	

キ
リ
ト
リ

【折返し部分】

個人情報保護のため、この部分を記入面のカバーとしてお使いください。



お手数ですが、セロハンテープで
接着してお隠しください。

資料請求

表面に必要事項をご記入のうえ、希望される資料にマークをつけてください。

- ・アニュアルレポート（日本語版） 送付希望 はい いいえ
 ・CSR報告書（日本語版） 送付希望 はい いいえ

以下のアンケートにお答えください。（該当番号・記号を○で囲んでください。）

年 令	①30歳未満 ②30代 ③40代 ④50代 ⑤60代 ⑥70代以上
株 式 投 資 歴	①3年未満 ②3年以上10年未満 ③10年以上20年未満 ④20年以上
弊社株式 保 有 歴	①1年未満 ②1年以上3年未満 ③3年以上5年未満 ④5年以上

- 会社情報を通常どのような方法で入手していますか。（複数可）
 ①新聞 ②会社四季報・日経会社情報等 ③投資情報誌等 ④証券会社営業員 ⑤証券会社レポート ⑥会社自身のホームページ ⑦その他のホームページ ⑧会社から直接 ⑨その他（ ）
- 弊社についてどのようなイメージをお持ちですか。（複数可）
 ①研究開発型 ②高成長 ③安定 ④グローバル ⑤若さ ⑥誠実さ ⑦その他（ ）
- 弊社についてもっと知りたい情報は何ですか。（複数可）
 ①経営方針・理念 ②会社概要 ③製品情報 ④事業情報 ⑤財務情報 ⑥その他（ ）
- 弊社の株式保有についてどのような方針をお持ちですか。
 ①買い増し ②長期保有（1年以上） ③短期保有（1年未満） ④特に決めていない ⑤売却済 ⑥その他（ ）
- 上記4. の方針を決定した理由は何ですか。（複数可）
 ①株価 ②配当 ③業績 ④将来性 ⑤社長の個性 ⑥技術力 ⑦その他（ ）
- 弊社（弊社IR活動）に対するご意見・ご希望をご記入ください。
 （ ）

アンケートにご協力ありがとうございました。

●当社ホームページ

当社は、インターネット上にホームページを開設し、製品紹介、決算情報などをご案内しております。また、株主・投資家及び当社ホームページに掲載される投資家情報に関心をお持ちの方々向けに、迅速な情報公開を目的としたメール配信サービス（無料）を提供しております。

（アンリツホームページ）



<http://www.anritsu.co.jp>

（投資家向け情報サイト）



<http://www.anritsu.co.jp/J/IR>

■事業年度

毎年4月1日から翌年3月31日まで

■定時株主総会

毎年6月開催

■基準日

定時株主総会 毎年3月31日

利益配当金 毎年3月31日

中間配当金 毎年9月30日

そのほか必要があるときはあらかじめ公告して定めた日

■株主名簿管理人

大阪市中央区北浜四丁目5番33号

住友信託銀行株式会社

■同事務取扱場所

東京都千代田区丸の内一丁目4番4号

住友信託銀行株式会社 証券代行部

(郵便物送付先)

東京都府中市日鋼町1番10 (〒183-8701)

住友信託銀行株式会社 証券代行部

(電話照会先)

住所変更等用紙のご請求 ☎ 0120-175-417

その他のご照会 ☎ 0120-176-417

(URL)

<http://www.sumitomotrust.co.jp/STA/retail/service/daiko/index.html>

■同取次所

住友信託銀行株式会社本店及び全国各支店

■公告の方法

当社ホームページに掲載します。

(URL)

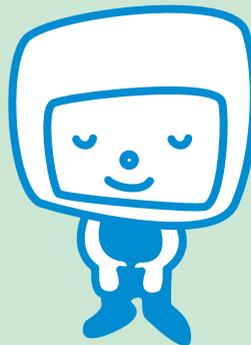
<http://www.anritsu.co.jp/J/koukoku/>

■上場証券取引所 東京証券取引所 市場第一部**■証券コード** 6754**■単元未満株式の買増制度**

当社は、1単元（1,000株）に不足する単元未満株式を買い増し、単元株式としていただける単元未満株式の買増制度を採用しております。お手続きの詳細につきましては、上記株主名簿管理人にお問い合わせください。なお、証券保管振替制度をご利用の株主様は、お取引の証券会社にお問い合わせください。

株主さま向け
アンケート

株主の
皆さまの声を
お聞かせください



当社では、
株主の皆さまの
声をお聞かせいただくため、
アンケートを実施します。
お手数ではございますが、
アンケートへのご協力を
お願いいたします。

下記URLにアクセスいただき、アクセスコード入力後に表示されるアンケートサイトにてご回答ください。所要時間は5分程度です。

<http://www.e-kabunushi.com>



アクセスコード
6754

いいかぶ

検索

Yahoo!、MSN、exciteのサイト内にある検索窓に、
いいかぶと4文字入れて検索してください。



空メールにより
URL自動返信



kabu@wjm.jpへ空メールを送信してください。(タイトル、本文は無記入)
アンケート回答用のURLが直ちに自動返信されます。



携帯電話からもアクセスできます

QRコード読み取り機能のついた携帯電話をお使いの方は、
右のQRコードからもアクセスできます。



アンケート実施期間は、本書がお手元に到着してから
約2ヶ月間です。

ご回答いただいた方の中から抽選で薄謝
(図書カード500円)を進呈させていただきます



※本アンケートは、株式会社エーツーメディアの提供する「e-株主リサーチ」サービスにより実施いたします。(株式会社エーツーメディアについての詳細 <http://www.a2media.co.jp>)
※ご回答内容は統計資料としてのみ使用させていただきます、事前の承諾なしにこれ以外の目的に使用することはありません。

●アンケートのお問い合わせ「e-株主リサーチ事務局」 TEL:03-5777-3900 (平日 10:00~17:30) MAIL:info@e-kabunushi.com

Anritsu

<http://www.anritsu.co.jp>

再生紙を使用しています。

